

細山 恒●

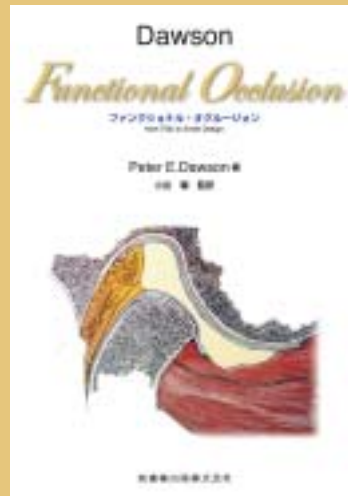
本書を手にした時、そのボリュームと膨大な情報量に圧倒された。そのうえ、内容のレベルが高い。過去に翻訳された海外の一流の論文を凌駕するような書である。

例えば、完全な歯科医療の概念の分析からその展望と咬合の在り方を突き止めていること、咀嚼系の構成における力学について顎関節からその背景を説明していること、そして本書の核となる理論を多くの症例を提示して解説していることである。また、咬合治療の基準は臨床の日常臨床を通じて十分に検証されたものであることも挙げられる。

咬合に関する翻訳書における初の本格的バイブルの登場は誠に嬉しい。原著は2006年に出版され、それを小出 馨日本歯科大学新潟生命歯学部教授以下それぞれの分野の権威が翻訳された全項目47章を数える大著である。

本書がやり遂げた成果をこのように評するのは一瞬だが、上梓はおそろしく地味で、極度の忍耐力を要する作業である。そのうえに、本書は咀嚼系という複雑で漠然とした生体器官から真理を得るという超大な作業でもある。特に自然美学を機能咬合から説いた項などはこれらの類の書としては圧巻である。おそらく咬合に関する他の書を読んでも、美をこの分野から客観的に理解するために頼りになる内容は数頁も書かれてはいないだろう。まさに一読しただけでは臨床応用するには余りにも難解な面が多々ある。しかしそれほどまでに本書は読破するに大変な価値があり、乗り越えてゆかなければならない貴重な書である。

また、見落とせないのは、著者 (Dawson氏) が咬合修復治療のテクノロジー・フューチャーについて記述していることである。コンピューター化による咬合治療のパラダイムシフトが進んでも、それらは技工分野の創造性と芸術性を保ちつつ、より安定した結果をもたらすものでなければならぬと説いている。そして教育、臨床経験、技術の多角的な判断力にとって代わるものではないとしている著者の



Dawson Functional Occlusion  
ファンクショナル・オクルージョン  
Peter E. Dawson 著 / 小出 馨 監訳  
A4判 560頁 定価29,400円 (本体28,000円+税5%)  
医歯薬出版株式会社刊

確固たる信念に感銘を受ける。

Dawson先生の理論を文字通り受け取り、理論に傾注してきた我々の世代は、本書に接してかなり気構えが違って来るだろうし、これからの若い世代にとっては文字通り臨床のバックボーンになるであろう。本書が強調している部分を十分に理解を深めて臨床展開をしてゆかなければならない。

歯科治療のゴールとして著者は「現代の優れた歯科医師は、咀嚼系を担当する医師である。その役割を担う特別な医療職は他にない。現代のスタンダードな歯科治療では、その責任をよく考えるべきである」と言っている。そして巻末に「治療を成功させるための明確な診断基準を満たすために、ルールを学び、必要な技術の向上に取り組むことで、非凡な歯科診療と充実した人生のための最も本質的な基盤が得られるのである」と結んでいる。本書の白眉はここにあると思う。包括的歯科医療を目指す諸兄必携の内容であるばかりでなく、編集項目の選定と記述内容に、卓抜した著者の教育者としての目線も感じられ、とても嬉しい。

(ほそやまひろし 〒959-1261 新潟県燕市秋葉町  
1-8-11 細山歯科医院 Tel: 0256-62-2277)